

(別紙)

特定区域の区域及び求められる事業活動の内容

養父市（全域）

(1) 当該区域の特性及び区域設定の考え方

養父市は、兵庫県北部の但馬地域に位置し、豊かな自然環境を有している。特に山岳地帯から流れ出る清らかな水と、全国的に有名なブランド和牛「但馬牛」の生産が盛んな地域であり、その牛ふんを利用した良質な堆肥を活用した土づくりを中心とした農業が行われている。また、冬季には積雪が多く、夏季は涼しいため、特に野菜や水稻の生産に適している。

特産品には、前述の「但馬牛」をはじめ、地域特有の「朝倉山椒」、在来種の青大豆「八鹿浅黄」などがある。さらに、高原地域で育まれる「おおや高原有機野菜」やコウノトリとの共生を図るため環境に配慮した「コウノトリ育む農法」で生産された「コウノトリ育むお米」など、環境に配慮した農業によって生み出された豊かな農産物が魅力である。これらの特産品は、地元の食文化を支える重要な役割を果たしている。

また「有機の里づくり」を目指して、養父市おおや堆肥センター、JA、養父市堆肥散布組合(市内畜産農家による組織)、やぶし有機の里づくり推進協議会、兵庫県等と連携し、市内で飼育される肉用牛や乳牛の家畜ふん尿や水稻のもみ殻などから完熟堆肥を生産し、耕種農家への販売や、市内の一部地域の水田や畑に、堆肥の配達や散布を行う事業に取り組んでいる。堆肥の品質においても、平成26年より「兵庫県堆きゅう肥共励会」にて大家畜部門の最優秀賞を受賞するなど、優良な有機質資材として認められている。主に市内の有機 JAS 認証取得者や、環境意識の高い農業者が利用しており、養父市の人と環境にやさしい農業の推進における強みとして重要な要素となっている。

前述の堆肥製造・配達・散布の取組や、有機農業の普及を進める「おおや有機農業の学校」、またその卒業生が中心となって開催している「大谷校区協議会有機農業体験型農園」など、多岐にわたる有機農業の取組が市内全域に広がっている。近年では有機農業を志す新規就農者や研修生の受け入れも進んでおり、こうした流れを受け、養父市は令和5年6月に「人と環境にやさしい農業ビジョン」の公表、「オーガニックビレッジ」の宣言を行った。

当市の豊かな環境と調和の取れた農業を次世代に引き継ぐため、市全体を特定区域に設定し、今後、さらなる有機農業の普及促進を図る。農業者・消費者・商工事業者など多様な主体が連携を強化し、農産物の付加価値の向上や消費促進、農業の魅力発信等を通じて、環境に配慮した人が集まるまちを目指す。

(2) 求められる事業活動の内容

① 活動類型

有機農業の生産活動

② 特定環境負荷低減事業活動の内容

養父市では、有機農業者や JA、商工事業者、学校給食センター等が参画する「やぶし有機の里づくり推進協議会」を中心に、有機農業など環境に配慮した農業への転換及び新規就農者の確保を重点的に行い、有機農業の技術継承を積極的に行うとともに、生産された農産物の流通・消費の拡大を通じて、地域が一体となって産地の維持・活性化を図る。

具体的な取組としては、有機 JAS 認証取得の支援による新規取得者の拡大や、地域内外イベントでの広報活動を通じた有機農業の認知度向上などがある。また、消費者や実需者などに向けた講演会や学習会を開催し、有機農業の価値と重要性の共通理解を深めることで有機農産物の消費促進を図る。さらに、学校給食センターと連携し、学校給食への有機農産物の提供や生産者による食育講話を実施し、子供たちやその保護者に有機農業について知ってもらう取組を行う。

また、スマート農業技術の導入等による省力化、高品質化、作業の平準化を図るとともに、団地化に向けた取組を推進し、有機栽培面積の拡大を目指す。